

伊藤超短波株式会社

社員一人ひとりの健康維持・向上こそ会社の成長の源泉

三年連続で「健康経営優良法人」（大規模法人部門）に認定されている伊藤超短波株式会社。他社事例などを研究した上で、伊藤超短波らしさを前面に打ち出した多彩な施策を展開している。



代表取締役社長 兼 CHO
倉橋 司さん



CHO 室
山田庸平さん

物理療法機器の バイオニア

「超短波」療法とは、一秒間に二七〇〇万回もプラスとマイナスの極性が入れ替わる電波を利用した治療法のこと。もともと検査機器の開発で創業した同社は、「検査で原因がわかってもけがや病気を治せるわけではない」との創業者の思いから、一九三四年に国内初の医療用大型超短波治療器の製作・販売を開始。以降、物理療法機器のバイオニアとして躍進を遂げてきた。

代表取締役社長であり、自らCHHOを務める倉橋司さんは「同業他社は主に病院用機器を取り扱っているのに対し、当社は医療関係者向けの分野で培われた高い技術ノウハウをベースに、いち早く一般のお客さまに向けた家庭用治療器の開発・提供を始めました。創業者の遺訓である『菩薩行』、すなわち、自分のことよりも他人の幸福を願うという利他の心をよりどころとして、『全ての人々が健康で幸せに暮らせる社会を追求する』ことをミッションに掲げ、事業活動を行っています」と説明する。

同社はまた、一九九九年よりアスリートの治療やコンディショニングをサポートする「スポーツプロジェクト」にも取り組み、柔道競技をはじめ、野球、レスリング、サッカー、陸上など、多くの選手やチーム、各種競技団体の活躍を支えている。

始めたのは、三年ほど前。二〇一四年に経済産業省が「健康経営の推進」を提唱したことに呼応し、倉橋さん自ら情報収集し、自社での取り組みを検討していたものの、どこから手を付ければいいのか思案していたという。

「その頃、株式会社ディー・エヌ・エーのCHHO室の平井孝幸さんと知り合いになり、直接、アドバイスを受けることができたのをきっかけに、社内『健康経営会議』を発足し、『健康経営優良法人』の認定に向け取り組みを開始しました。当社の社員は三五〇人ほどで、一人ひとりの活力が全社に与える影響は大きなものがあります。社員が健康になることが会社の成長につながるのと考えの下、どうしたらみんなが健康を意識できるのか、きめ細かく施策を練っていきましました。その結果、申請初年度の二〇一九年から三年連続

自社らしさにこだわった 取り組みの数々

同社が本格的に健康経営に取り組み

「車で営業先を回ることもあり、意識しないとなかなか歩く機会がありません。CHHO室では、四半期に一度のペースで月間の歩数を競うイベントを開催しています。アプリをインストールすれば個人ベースで記録できるため、コロナ下でも開催できました。ビジネスチャットで各自の歩数目標を宣言したり、結果を報告したりと、コミュニケーションとしても役立っていると感じます」と話すのはCHHO室の山田

で大規模法人部門の認定を受けることができます」（倉橋さん）

同社の健康経営関連の制度は、伊藤超短波らしさにこだわったスポーツ関連のものが多く、特にウォーキングシューズ購入補助は好評で、機能性の高いシューズを履くことが、歩くことへのモチベーションにつながっているという。

「車で営業先を回ることもあり、意識しないとなかなか歩く機会がありません。CHHO室では、四半期に一度のペースで月間の歩数を競うイベントを開催しています。アプリをインストールすれば個人ベースで記録できるため、コロナ下でも開催できました。ビジネスチャットで各自の歩数目標を宣言したり、結果を報告したりと、コミュニケーションとしても役立っていると感じます」と話すのはCHHO室の山田



理学療法士の資格を持つ社員が開発したオリジナル体操「伊藤超体操」は、YouTube で広く公開されている。出演しているのも、すべて同社の社員だ

倉橋さんが自ら全国の営業所に赴き、健康サポートの制度説明と、歯の健康についてのセミナーを実施



社員に無償レンタルしている治療器と同型機種の家庭用超短波治療器「ひまわり SUN2」

「健康を支えていることは当社事業の根幹です。社員の反応を見ると、『ウチが認定を取ることは当たり前』というプライドが芽生えてきたように感じています。また、新卒の採用活動に

庸平さんだ。こうした取り組みにより、同社はスポーツ庁が認定する認定制度「スポーツエネルギーカンパニー」にも、二年連続で認定されている。

また、現在はコロナ禍で休止中だが、二〇一九年からは倉橋さんが全国の営業所を回り、健康経営関連の制度や取り組みについて社員と会食しながら懇談する「C H O ランチ・ダイナー」を開催。店選びにもこだわり、地元ならではのオーガニック食材を囲んで倉橋社長とざっくばらんに話をする場だ。さらにランチ・ダイナーの前には、歯学博士でもある倉橋さんによる「C H O 歯科セミナー」を実施し、「歯の数と生活習慣病の関係」など歯科衛生の重要性についてレクチャーを行う。歯科検診の費用も年一万円までの補助としており、歯科検診受診の促進策として活用されているという。

健康経営企業であることが社員の誇りになる

同社では社長である倉橋さんが先頭に立って旗を振っていることもあり、社員の参加意識が非常に高い。たとえば健康経営の機運を維持・向上させるために社内公募でスローガンを募集すれば、予想以上の応募が集まる。

「当初、年度スローガンだけの予定だったのですが、せっかくだからと月次スローガンも設定し、ポスターにして掲出しています」（山田さん）

また年一回、C H O 室主管で行っているメンタルや健康に関する全社アンケートの回答率も九五%に上り、全役職員が取り組む「チャレンジ健康自己ベスト」でも、設定した目標を次々と達成しているという。

取り組みを始めてから三年。健康経営推進による経営的な効果をどのように捉えているだろうか。

企業 DATA 伊藤超短波株式会社

本社所在地：埼玉県川口市栄町 3-1-8 (埼玉本社)
 代表者：代表取締役社長 倉橋 司
 従業員数：353 人 (2020 年 12 月現在)
 事業内容：病院用および家庭用治療器、リハビリテーション機器、健康機器、美容機器などの製造・販売
 ホームページ：http://www.itolator.co.jp

においても「健康経営優良法人」認定の P R 効果は大きく、企業説明会の参加率が前年比一七〇%となりました(倉橋さん)

今後、自社製品に対する信頼が一層高まることで、より強い誇りと自信を持てると確信している、と倉橋さんは続ける。そのための施策として、二〇二〇年二月からは社員への自社製品の無償レンタルも始めています。

「このレンタル制度は、社員に製品に対する愛着を持ってもらい、かつ自社製品の効果を実感してもらいたいとの思いからです。数年後の健康診断で、自社製品を使用していた社員の結果が改善されていることが理想です」(倉橋さん)